

# 平成26年度 分掌・学年努力目標

[4:大変良い 3:良い 2:あまり良くない 1:良くない]

分掌名	目 標	具体的方策	目標数値また期間	前期評価	年間評価	問題点・課題等
教務部	校務の円滑な運営を図	主任会を通して他分掌との連携を図り学校行事の円滑な運営に努め、学校の活性化を図る。	毎月2回以上主任会を開催する。	3.7	4.0	7月の夏休み期間の授業は、午前中平常の授業(体育以外)を行い、午後は面談があるので、3年生は希望者のみ自学にしてはどうか。3年生の午後は実質副担任のみフリーで、効果が上がらないように思う。
		職員朝会の伝達がスムーズに行えるように、黒板の工夫、朝会黒板画像を活用する。	2日分の日程が書き込める様な黒板の工夫を行う。	3.7	4.0	
		生徒の実態を踏まえ、学期毎の追考査・補講に取り組む。	学年末の追認考査及び追認補講の撲滅に努める。	3.3	3.0	
	授業の充実に努め、学力の向上を図る	行事の精選や時間割の調整・変更をおこない授業時間数の確保に努める。	1単位あたり30時間以上の実施授業時数を確保する。	3.3	4.0	8月も午前中は平常授業にして、午後3年生はコース別の補習を行うとしてはどうか。 7月の保護者との面談については、教務で実施できる日の日程をつくり、それを元に担任が面談計画を立てる形式にしていく案。
		シラバスを作成し、より充実した内容への点検作業を実施する。	年度末までに次年度分を作成。各学期終了後点検。	3.3	3.0	
		生徒の学力の実態を把握し、より実践的な授業研究に努める。	公開授業を年間を通して行う。	3.3	3.0	
	生徒の進路希望に対応できるコース制を研究する	生徒の進路希望や実態を取り入れた教育課程を編成する。	7月中旬までに終了	3.3	3.0	3年生が家庭学習に入る2月から、登校後、朝読→SHR という形式で試行した。新年度も可能なら朝読→SHR という形式で実施したい。
		魅力あるコース制の研究に努める。	年間を通しておこなう。	3.0	3.0	
	PTA・地域社会との連携をはかり教育効果を高める	地域社会及び中学校との連携を深める。	随時	3.7	4.0	2学期になり、特定生徒の欠席・遅刻が目立つようになってきた。対策を検討する必要がある。 中学校保護者への学校説明会を吾妻ふるさと会館と本校の2回行ったが、参加者数は約70名であった。その中にはOSの2回と今回の3回出席する人もいた。この結果が募集定員確保に繋がることを祈る。
		HP・学校だよりを利用して学校のPRに努める。	随時更新を促す。学校だよりを毎月発行する。	3.7	4.0	
		PTAとの相互理解を深め、活動の活性化を図る	各種行事の参加案内を3週間前に配布する。	3.3	4.0	
	教職員の各種研修・研究を推進し、教育活動の活性化を図る	各種職員研修や報告会を定期的に開催する。	教務、生徒指導、保健相談に関わる研修会を各1回以上おこなう。	3.7	4.0	授業参観日を4回設けたが、学期に1回程度でも良いように思う。その分、学級懇談会等の内容を濃く。 時間割変更は必ず係を通していただきたい。変更したときは必ず連絡をお願いします。万が一の事を考えて、事前に自習課題を準備しておくなどしておくことをおすすめします。
		各種研修会と、研修の充実に努める。	学期に1回は行う。	3.7	4.0	
		ICTを利用した指導法の研究に努める。	各教科公開授業を行う。	2.3	2.0	
	読書活動の推進と図書館の充実を図る	「読書の時間」等を通して、生徒の読書量を増やしていく。	毎日「朝の読書」を実施する	2.7	4.0	
		生徒の興味・関心を促すような図書を購入し、図書館の充実に努める。	年2回希望図書の購入をおこなう。	3.3	4.0	
	環境美化	掃除の徹底	学期に1回は必ず掃除箇所の点検をして掃除用具の補充を行う。	3.0	4.0	
		掃除監督の徹底	生徒会の委員会活動を利用して掃除監督者との連絡指示を徹底する。	2.7	3.0	
ゴミの分別		毎日、係の美化委員で整理する。	2.7	3.0		
施設・設備	掃除用具の整備、点検	各学期ごと、最後の掃除で整備点検する。	3.3	3.0		

# 平成26年度 分掌・学年努力目標

[4:大変良い 3:良い 2:あまり良くない 1:良くない]

分掌名	目 標	具体的方策	目標数値また期間	前期評価	年間評価	問題点・課題等
生徒指導部	基本的生活習慣の確立	容儀指導の徹底を図る。	月1回の一斉容儀検査を実施して、粘り強く指導を行う。	3.5	3.5	近隣店の出入り禁止解除に向けて、動きたい。 授業態度・生活態度など、特に、1年生の指導に手を焼くことが多かった。また、特別指導後の授業評価は事後指導として有効だった。 容儀指導は、共通理解のもと全職員で取り組めた。 ただし、今年度はソックスを異常に短くしてはく生徒が目立った。学校指定が必要かどうかも含めて検討していきたい。 集会時の無言整列は、全職員の指導をおかげでずいぶん定着してきている。今後も自然とできるように指導を続けていきたい。 今年度は、登下校時における自転車事故も発生した。自転車保険の一斉加入についても検討していきたい。 後期になって、いじめ、からかい、ネット関係、万引きなど多岐にわたって、特別指導の件数が増加したことが残念であった。
		公と個の場面を理解して、自らの行動を律することができるようにする。	集会時の整列・美しい容儀について全職員一体となって指導を行う。特に、私語厳禁を強く打ち出す。	3.8	3.8	
		時間厳守指導の徹底を図るため、全職員が授業の開始時間を厳守する。	毎授業時に行う。	3.2	3.2	
	公共心の育成	乗車マナーの向上を図るため、JRおよび島鉄の乗車指導を徹底する。	年間10回の乗車指導を実施する。	3.2	3.2	
		学校周辺の商業施設での利用マナー等の指導を強化する。	定期的に巡視等を行い。地域関係者と交流し、情報を共有する。	3.7	3.4	
	生活委員会の充実	挨拶の励行を図るため、職員・生徒が一体となり挨拶運動を推進する。	年8回、生活委員・各部リーダーと一緒に登校指導をおこなう。	3.3	3.7	
		駐輪場の整理整頓および安全確認に努める。	月1回生活委員で駐輪場の整理整頓および二重ロックの確認を実施する。	3.6	3.4	
分掌・学年等との連携	生徒の実態把握と理解を深めるため各学年・分掌との連絡を密にし、指導の強化を図る。	各学年主任・分掌主任と毎月1回は会合を持つようにする。	3.8	3.6		
	学年・分掌と協力して、リーダーの育成を図り、生徒の自主性を育む。	リーダー研修合宿、体育祭・文化祭において、学年・生徒会と連携して実施する。	3.8	4.0		
進路指導部	学習の定着と基礎学力向上	・進路希望調査実施と学力向上につながる補習・学習会・模試の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路希望調査を年3回実施</li> <li>・モートレ、補習、模試の有効活用、夏季学習会と冬季学習会の実施</li> <li>・各学年・教科と連携をとり、学力検討会を実施</li> <li>・学力検討会を3回、志望校検討会を2回実施</li> </ul>	3.0	3.0	
		・進路実現のため全職員による進路体制の確立		3.3	3.3	
		・モートレ、補習、土曜日・長期休業中の学習会で学習習慣の定着		3.5	3.2	
	個々の進路意識の高揚	・学年・進路別集会、進路講演会・進路ガイダンスの開催	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講演会やガイダンスを学年ごとに年2回づつ開催</li> <li>・小論文・教科の添削指導</li> <li>・受験前に5回以上の模擬面接</li> <li>・進路説明会・職場見学への協力</li> </ul>	3.0	3.5	
		・ファインシステム等の成績分析を通しての進路相談		2.7	3.0	
		・2年次でインターンシップを実施し、職業観を育成		3.5	3.5	
		・個に応じた小論文・面接・教科指導等の計画実施		2.7	3.2	
	進路情報の提供 進路室の有効活用	・進路希望を把握し、適切な進路情報の精選と迅速な提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各クラスに進路に関する情報誌等を年6冊配布</li> <li>・ファインシステムなどにより担任に学期に1回資料提供</li> <li>・「進路だより」の年4回以上発行</li> <li>・定期的な資料の更新と掃除の徹底</li> </ul>	2.7	3.2	
		・『進路だより』等で情報の提供を行う。		3.3	3.8	
		・模試データ等を分析し、学年や教科と情報の共有・有効活用		3.3	3.2	
・進路室のデータの系統的整理整頓		3.3		3.0		

# 平成26年度 分掌・学年努力目標

[4:大変良い 3:良い 2:あまり良くない 1:良くない]

分掌名	目 標	具体的方策	目標数値また期間	前期評価	年間評価	問題点・課題等
生徒会指導部	自治能力の育成	挨拶の励行に努める。	授業開始、終了の挨拶の改善を図る。	3.5	3.8	生徒会総務を中心に行事をスムーズに運営することができた。 東高等学校キャラクター東葉ちゃんが誕生したので、広報紙等で広くPRを行っていく。 各委員会をもっと活動させる工夫が必要である。 ふだんの部室のカギの施錠、返却、部室の使用状況を各顧問が気がけ、指導をお願いしたい。
		各行事がより活性化するよう内容を工夫し、スムーズな運営に努める。	前年度の内容を一つ以上改善する。	3.3	3.0	
	活動の活性化	各種委員会において、具体的な活動内容を定め、各分掌と連携しながら取り組む。	取り組む内容を具体的に2つ以上決め、目標について全校生徒に周知を図る。	2.8	3.0	
		入部状況の調査を定期的に行い、各学年と連携して、無所属生徒の部活動編入の場を設ける。	4月、9月、1月に実施。	3.8	4.0	
	活動等の見直し	学校HPを活用し、生徒会活動や部活動の広報に努める。	随時更新する。	4.0	4.0	
保健相談部	規則正しい生活習慣の確立	・自己管理能力の具体的な手だての実施	『保健便り』を年間9回発行し、啓発する。	3.5	4.0	計画的に発行できた。
		・健康診断の事後指導の徹底	該当生徒の保護者への連絡を徹底する。	3.5	3.5	治療勧告を出しているが、治療に行かない生徒もいる。
	安全で衛生的な教育環境の整備	・救急の場合の円滑な生徒への対応の実施	校医との連携をスムーズに行い安全面の強化を図る。	3.8	3.8	校医と連絡を取りスムーズに健診を実施できた。
		・安全衛生に対する知識と理解の深化	安全衛生委員会を2回開いて、問題点の解決を図る。	3.8	3.8	月1回、昨年に続いて安全点検を実施できた。
	学校生活への適応援助活動の徹底	来談生徒への受容的態度の徹底、心を開く環境作りの実践	来室しやすい相談室となるよう心掛ける。	3.5	3.8	連携を密にししながら、情報共有及び対応をはかっている。  予定通り実施した。2年生は来年度「シグマ検査」から「M-G検査」に変更となる。説明会は1学期末考査時に開催予定。 3学期に不登校状態になる生徒が多く出た。
		不適応生徒の早期発見・支援	日頃から担任・学年との情報共有をはかる。	3.8	3.8	
		いじめの予防・解消、各種調査の実施と分析	いじめ・悩み調査を年5回実施し、迅速な発見と対応をはかる。	3.8	3.8	
		生徒理解のための、心理テストの実施と活用	内田クレペリン・シグマ検査の報告会を、1・2学年に1学期中に実施し、検査結果の活用をはかる。	3.8	3.8	
	各分掌・学年・スクールカウンセラー・保護者・中学校・外部機関	特別支援コーディネーターとスクールカウンセラーの連携を強化	日頃からスクールカウンセラー、養護教諭、担任・学年との連携を密にし、情報の共有をはかり、適切かつ迅速な対応を行う。	3.8	3.8	日本学生支援機構の予約奨学金申込みは、1次・2次合わせた36人になった。
		事例研究などをすすめ、職員の共通理解を深化させる職員研修の実施	A T合格者発表後、中学校訪問を実施し、新入生に対する適切な支援・指導に役立てる。中学校訪問報告や事例研究を含め職員研修を年間3回行う。	3.9	3.9	
	地道で円滑な奨学金の運営	各種奨学金の紹介、手続きの徹底	必要に応じて、生徒・保護者への説明会を行う。	4.0	4.0	来年度は11月最終週に実施したい。DV防止をテーマとした講話の予定。
	教育活動の土台としての人権教育の推進	生徒間に自尊感情・思いやりのこころを育成	2学期に講演会を実施する。適宜、機会をとらえて集会などで呼びかける。	3.8	3.8	

# 平成26年度 分掌・学年努力目標

[4:大変良い 3:良い 2:あまり良くない 1:良くない]

分掌名	目 標	具体的方策	目標数値また期間	前期評価	年間評価	問題点・課題等
事務部	組織的取組の推進	・学校窓口としての認識（丁寧な来客・電話対応等）	随時	4.0	4.0	外部との窓口として円滑な対応はできている。予算の執行については効率と効果をよく考えて計画的に行っている。施設、設備面では老朽化したものが多く発生してきたので対応がなかなか追いつかない面もあり、今後の課題である。
		・教育行政の円滑化（県教委・校内とも早期の報告・連絡・調整）	随時	3.5	3.5	
	予算執行の適正化	・長崎県財務規則に則った計画的かつ適正な予算執行に努める	随時	3.5	4.0	
	施設設備の改善	・長期的展望と生徒の目線に立った改善に努める	月に1回以上安全点検を行う	3.0	3.0	
	環境美化（対策）	・節電・ゴミの減量化・分別の広報と実践（教職員・生徒）に努める	適宜行う	3.0	3.0	
1学年	学力の向上と進路の実現	授業の質の向上を目的に全時間公開授業とする。	全時間を保護者、職員を対象とした公開授業とする。	4.0	4.0	授業中落ち着かない、集中できない生徒については根気よく継続して指導をした。保護者にもそのつど連絡し対応した。 マナトレ教材については標準クラスが2学期中間、基礎クラスが3学期半ばまでかかって完了した。 宿題、宅習ノートについては指導に苦勞する点もあった。習慣化させるのが難しく継続して指導する必要があった。 幼稚な言動、粗暴な振る舞いをする生徒が多数見られたが多くの先生方の御協力により少しずつではあるが改善してきた。今後も継続して指導する必要がある。 清掃については徐々によくなってきたが、私物の管理について徹底しない面が多く見られた。 特定の生徒の欠席者、遅刻等が目立ったが、全体的に出席の状況は良好であった。 2学期以降、1-2を中心に授業観察を行ってもらった。一定の効果があつた。
		国・数・英の学び直し（マナトレ教材）を年度の早い段階で完了させる。	基礎クラスは2学期末考査、標準クラスは2学期中間までに完了させる。	3.0	3.0	
		各教科で出された宿題を毎日把握し、提出を徹底させるとともに、未提出の者はその日の放課後に居残り提出させる。	5月中旬をめぐりに提出率100%を目指す。	2.0	2.0	
		宅習ノートを用いて自ら学ぶ姿勢をつくらせる。未提出の者はその日の放課後に居残り提出させる。	5月中旬をめぐりに提出率（自宅学習率）100%を目指す。	3.0	2.0	
	生徒指導の徹底	個人面談、三者面談、保護者との連携、家庭訪問の充実。	学期に1回の個人面談。ちょこっと面談。ちょこっと連絡。問題が起こる前の家庭訪問。	3.0	3.0	
		挨拶の励行、言葉遣い、容儀の指導を根気強く行う。	新風26、宿泊研修での完成。その後の授業、学校行事等で継続指導。	3.0	3.0	
	豊かな心の育成	清掃活動の徹底。掃除の時間・係の者だけでなく清掃を行う。	教室ゴミ0 放課後の机上0	3.0	2.0	
		年間皆勤賞、年間無欠席賞を設け年度末に表彰する。	皆勤賞10%（12名）無欠席賞20%（24名）以上	3.0	4.0	
		命の尊さや個人の尊厳を重んじる心の教育の推進することを目的として「東冶」を実施。	年間10回以上の実施。	3.0	3.0	
	教職員の資質向上	学年の先生方相互の授業見学を実施。	学期に1回は他の先生方の授業見学を行う。	4.0	4.0	

# 平成26年度 分掌・学年努力目標

[4:大変良い 3:良い 2:あまり良くない 1:良くない]

分掌名	目 標	具体的方策	目標数値また期間	前期評価	年間評価	問題点・課題等
2 学年	「自主自律」のために進路を拓く学力と社会技能（ソーシャルスキル）を組織的に身につけさせる。	授業の質向上のために全時間公開授業とし、定期的に学年による授業研究を行う。	授業研究を年3回実施する。	3.4	2.8	授業で寝る生徒が少数ながらいる。保護者との連携を含めて指導するとともに、生徒が寝ない授業や力をつける授業づくりを組織的に進める取り組みが不足していた。 組織的に取り組めたが、生徒に目標を持たせ、主体的な学習へと移行させる仕掛けが足りなかった。 生徒の問題行動や不登校に対して保護者と連携しながら、個に応じた指導・支援を行っている。 延期したが、実施できてよかった。事業所の生徒への評価も概ね良好であった。 生徒にとって有意義で充実した体験であった。 学校を見学し、進路への意欲を向上させた生徒が見られた。 生徒の心に響く取り組みであった。時間が十分ではなく、感想も浅いので、モートルの国語で実施してはどうか。 学力的に厳しい生徒が多い中、それぞれの進路に向けてよく対応で
		生徒が「遅れない」、「寝ない」、「しゃべらない」授業を守るために生徒の情報の共有と統一した指導を行う。	全授業で行う。	3.2	3.0	
		家庭学習の充実を図るために宿題を計画的に課し、宿題を確実に提出させるために担任や教科担当者が居残り指導を行えるよう連携する。	国・英・数はほぼ毎日宿題を出す。宅習ノートを毎日1ページ取り組ませる。	3.0	3.5	
		受験に対応するために生徒の学力・進路希望に応じた授業、モートル、特別授業、学習会、個別指導等を行う。	12月の県下一斉実力テストで各教科県偏差値50以上の生徒を5名以上出す。進研実力診断テストでDゾーンの生徒を5名以下にする。必要な生徒に小論文指導を行う。	3.2	2.7	
		皆勤・無欠席の生徒を増やすために年間皆勤賞、年間無欠席賞を設け、年度末に表彰する。	皆勤・無欠席の生徒が学年全体の60%以上になるようにする。	3.2	3.0	
		個に応じた指導の充実と問題の早期発見・解決のために生徒との個別面談を計画的に行う。	学年生徒を対象とした定期的個別面談を年3回実施するとともに、必要に応じた個別面談を適時行う。	3.4	3.3	
		進路学習と社会技能の養成を主目的にインターンシップ（職業体験学習）を行う。	全員参加。	4.0	3.7	
		異文化理解と社会技能の養成を主目的に海外修学旅行を行う。	全員参加。	3.6	3.7	
		生徒に主体的に進路を考えさせるために生徒が各自で上級学校を2回以上見学し、レポートを提出することを課す。	全ての生徒に2回以上見学させる。	3.6	3.2	
人間性の涵養、進路指導、社会技能の養成等を目的とした生徒の校内研修を行う。	週1回朝読の時間に「東雲」を実施する。また、生徒の校内研修を年3回以上実施する。	3.4	3.2			
3 学年	学習・進路指導の充実	大学入試（センター試験、推薦入試、AO入試）に対応した補習、学習会、小論文・面接指導、個人添削等の指導を充実させる。	週1回朝読の時間に「東雲」を実施する。また、生徒の校内研修を年3回以上実施する。	3.3	3.6	
		高看入試に対応し、補習、学習会、小論文・面接指導等の指導を充実させる。	高看合格10名以上	3.5	3.9	
		就職試験に対応した補習、学習会、面接指導等を充実させる。	就職率100%	3.5	3.9	
		生徒の進路について保護者との連携を密にする。	進路決定の進捗状況によっては三者面談2回以上	3.1	3.6	
	爽やかで豊かな心の育成	生徒とのコミュニケーションを活発に行うとともに、計画的面談を実施し、生徒理解と信頼関係の構築を図る。	個人面談を2回以上実施し、生徒の情報は学年で共有する。必要な面談は機を逃さずに行う。	3.6	3.6	
		部活動・学校行事・生徒会活動等に積極的に参加させ、東高の最高学年としての自覚を持たせる。	部活動・生徒会総務に常にリーダーとしての自覚を持たせる。	3.8	3.4	
		清掃活動やボランティア活動を充実させる。	清掃の監督には毎日必ずつき、秀峰荘などの慰問を奨励する。	3.5	3.4	
		基本的な生活習慣を確立させ、打たれ強い生徒を育てる。	私物を机・ロッカーの上や床に置かせない。	3.0	3.0	
生活指導の充実	生徒の生活面について保護者との連携を密にする。	欠席、遅刻、早退などは確実に連絡を取る。気になる点は早期に連絡する。	3.1	2.9		
	規則正しい生活を送らせ、安易な欠席を減らす。	学年の年間出席率99%以上。	3.5	3.1		